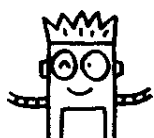


## よしのがりいせき 吉野ヶ里遺跡は、どんな遺跡なの



弥生時代のくにの中心とみられる、大きい環濠集落などが発見された、佐賀県東部の遺跡だよ。

佐賀県東部の神埼町と三田川町にまたがる吉野ヶ里遺跡は紀元前3～3世紀までの、住居あと・道具などが発見された遺跡です。特に注目されたのは、弥生時代の環濠集落と墳丘墓です。

### 環濠集落のようすは、時代とともに変わった

吉野ヶ里では、弥生時代の紀元前3世紀までに、約3ヘクタールの環濠集落がつくられ、紀元前1世紀には、40ヘクタールに近い、大きい環濠集落に発展したようです。紀元1～3世紀には、環濠が二重以上になり、さらに防御をかためた集落に変わりました。この集落には、多いときで1000人ぐらいの人々が、住んでいたようです。

### 王の墓らしい墳丘墓がある

弥生時代の墓地から出てきた人骨の中には、首がないものや、矢が射こまれたものがあり、戦死者と考えられます。人工の丘をきずいた墳丘墓で発掘された「かめ棺」からは、銅剣、ガラスの管玉、絹・麻の織物などが出してきました。この墳丘墓は、王の墓と見られることから、吉野ヶ里遺跡は、一つのくにの中心的な集落だった、と考えられています。また、中国や朝鮮半島との交流があったことを示すものも、見つかっています。

### 邪馬台国に似ている施設が多い

吉野ヶ里遺跡には、『魏志』倭人伝で邪馬台国について書かれていることと、似ている施設が多いことが、注目されました。つまり、この遺跡は、邪馬台国のようにくにの中心となる集落が、どんな姿であったかを、見せてくれるものです。

**ことばの意味** 環濠集落 周囲をほりや川で囲まれた集落。